

## 107 與兵衛沼について

問 與兵衛沼は何時頃からあったものですか。

答 與兵衛沼の文献初出は、明和9年〔1772〕成立した「封内風土記」（田辺希文）で、次の記事があります。『小泉邑〔むら〕〔小泉邑の村域は広大で、燕沢・小鶴・小田原等を圧迫するように食い込んでいた。旧国分氏が本拠を小泉に置いた時代の村勢を示すものか、或いは小泉に所在する国分寺の勢力によるものか。〕…堤一。号與兵衛堤。小泉。燕沢。小鶴三邑用水。』この「封内風土記」は與兵衛沼の創設者の姓名を明記していません。次に「塩松勝譜」（舟山萬年〔ばんねん〕、<sup>(1)</sup> 文政5〔1822〕序）巻8之2に『天遊館…館北山間蟹沢塘〔かにさわつつみ〕アリ與平ト云フ。…天遊館記〔臯容〔さわよう〕撰〕曰『…天明〔1781～89〕…藩公子玉山公東郊得一旧宅舍<sup>(2)</sup>焉。……鈴嶼平家焉。……北則與平隄。近在簾牀之下。宛若硯。潭不波。松樹藩環。是鈴嶼平所築<sup>(3)</sup>。因名。…』とあり、更に現地を実査しますと、堤東畔に「水神碑」があり『與兵衛堤者寛文十一年〔1671〕鈴木與兵衛依公許所開…』と刻んであります。すなわち與兵衛沼は、寛文11年鈴木與兵衛の絶大な努力によって造成され、広域にわたる堤下水田灌漑の役割を果しつつ今日に至ったものであります。鈴木與兵衛について「仙台人名大辞書」（菊田定郷）は、次のように記してあります。『鈴木與兵衛 公益家、諱は吉治、鈴木家三代、常に公共心に篤く、嘗て城東灌漑用水の乏しきを憂ひ、宮城郡向小田原後山の溪谷〔小泉邑分〕を闢〔ひら〕きて用水池となす。南北四五町、東西十五六町清水常に満ち、盛暑と雖も涸れず、以て小田原、南目、苦竹、燕沢等数百町歩の耕田に灌漑す。綱村公其の功を賞して池名を與兵衛堤と命じ、邸宅を同所万寿寺の東に賜ふ、延宝四年〔1676〕五月十一日歿す。享年五十四、仙台新寺小路愚鈍院に葬る。』<sup>(4)</sup>

與兵衛沼は向小田原の東西に走る幾筋かの連岡の谷合いの一つに、幅150m、長さ500mにわたって静かに水を湛えている人工溜池であります。近々十数年以前までは、山中の湖といった方がしっくりするような景観で、特に冬季スケートリンクとして、その名が全市民の間に知られたところでした。最近急激な宅地造成によって、第2・第3自由ヶ丘団地に包囲されてしまいましたが、戦前から風致地区として指定されたため、今のところ割に自然が保たれています。<sup>(5)</sup>

米経済の本格化する徳川時代に入ると、全国的に新田開発が一斉に推進されます。荒地・未耕地の多い仙台領内に於ては、一段と活発に展開し、4代綱村時代を頂点として、本高60万石に対し100万石の実高が達成されるに至ったといわれます。寛文事件の一要因となった境界争いもこの進行過程で発生したものであります。稲作の生命は用水の安定的確保にあります。そのため特に河川からの取水のみに依存できない地域では、できる限り多くの溜池〔用水池〕を構築するのに、農民は血みどろの労苦を注ぎ込んできました。後代の人達はそれを保守しつつ、永くその恩恵を受けることとなります。溜池は渇水に備えての貯水であると共に、貯留中に太陽熱を受けて適度に上昇

した水温は水稻の成育に良好な効果をもたらすものであったのです。稲は本来熱帯原産の植物であります。たとえば山根の「生水〔きみず〕がかり」の水田など、平年でもまともな収量を望めず、一旦冷害があれば真先に直撃されてしまったものです。溜池は稲作の起原とともにあり、開化の早い奈良盆地や大阪平野には2千年前に築造されたものが現存しています。また「讃岐三千、大和三千」などといわれてきたように、おびただしい数の溜池が全国に分布しています。建設省の昭和30年の調査によれば、全国に散在する大小27万余の溜池によって、水田全面積の3分の1が補水されているという驚くべき事実が示されています。溜池は貯水に適する谷合いの地形を利用して、出口に土堤を築いて締切り、自然湛水を待つだけの古来の工法によるものであります。しかし全く機械力のなかった時代ですので、まことに容易ならぬ土木工事だったわけです。しかしその完成の陰に名もなき農民の数知れぬ労苦は埋没してしまい、概して肝心な記録もまた伝わらず、今日になっては、一々造成の事歴を探るすべの失われてしまったものが多くなりました。その中で僅かに人名を冠した堤の名があるものについては、その由来を偲ぶことができる場合があります。與兵衛沼は、人名を冠したものの一つで、自然沼でないので本来與兵衛堤と称し、幸いにもその来歴を知ることのできる溜池でした。昨今稲作事情が急変し減反転作が強行される中で、與兵衛沼の役割も昔通りではなくなったが、かつての広大な樹林群の名残を幾分か止める堤の周辺一帯は、昭和50年「杜の都の環境をつくる条例」に基づき保存緑地に指定保護され、更に昭和55年度以降都市公園とする計画があるので、清澄静寂な自然環境が荒廃せずに保全されることになっています。

注(1) 儒者。名は光遠、通称太郎兵衛、濱陽と号す。萬年はその字〔あざな〕である。幼時から学問を好み、僧南山について有髪の弟子となる。嘗て塩釜松島の勝景を記した全書のないことを嘆き、自ら松島塩釜の現地を実査すること前後100回を越え全20巻の「塩釜勝譜」を著した。また今に伝わる松島四大観すなわち扇溪の幽観・富山の麗観・大高森の壮観・多聞山の偉観は彼の選定したものである。萬年は詩文書画にすぐれ、殊に官女の図は最も絶妙といわれる。安政4年〔1857〕歿、67才。仙台新寺小路東秀院に葬る。

注(2) 儒医。本姓は沢辺、修して臯〔さわ〕とした。名は容〔有容を修したともいう、また坦とも〕、字は子徳、通称は元沖〔また太仲とも〕、東谷と号す。栗原郡三迫沢辺邑に生れた。父は保章、字は明甫、間然居士と称し、佐久間洞巖、富春叟等と交わり、学識該博と称せられた。容はその次男で、初め菅原南山に学び、弱冠にして江戸に上り、堀公恕に師事し、その学益々進んだ。時事に関心深く、著書に「狂愚子」及び「文問文集」等がある。また「燕沢碑考」は同類の論考の中でも傑出したものと評せられる。医術にも長じ仙台で儒医を業とした。狷介で世に容れられず、詩酒に放浪して世を終ったという。天明4年〔1784〕2月2日歿、57才。仙台北八番丁江巖寺に葬る。

注(3) 鈴木與兵衛。鈴木を修して鈴とし、與兵衛に嶮平の字を当てた。

注(4) 小田原高松上にあり、黄檗宗、京都宇治黄檗山万福寺の末寺で開元山と号する。もと加美

郡黒沢邑〔今の色麻町黒沢〕に在り、安養寺と称したが荒廢に歸したので、元禄9年〔1696〕9月、第4代綱村の時その遺址をこの地に移し、壯麗莊嚴を極めた七堂伽藍を建立し、寺名を万寿寺と改め、月 畊〔げっこう。畊は耕の古字〕和尚を開山とした。境内に綱村夫人稲葉氏万寿寺殿の靈廟があり、綱村公子桂山の靈牌を安置し、一門格に列せられていたが、明治維新の变革によって伊達家の外護を失い、堂宇荒廢して修理の途なく、僅かに残る位牌堂で法灯を維持し、その後塔頭〔たちゅう〕の一つ〔全盛時には10箇院の塔頭があった〕三昧院が日々の行持を継承して久しかったところ、最近本堂を新築して万寿寺の寺名が再興した。月畊和尚の碑、稲葉仙姫墓〔綱村夫人、宝永2歿〕、文靖夫人墓〔慶邦夫人八代姫、明治2歿〕、純姫墓〔慶邦養嗣宗敦夫人、明治4歿〕、伊達松五郎墓〔慶邦四男、明治3歿〕、延寿院墓〔齊義室、慶邦生母、明治9歿〕、本光院墓〔齊宗室、明治18歿〕、若林靖亭墓〔諱友輔、大番頭、学者・詩人、慶応3歿〕等があったが最近墓地整理のため移動か廢棄されたものが多い。昔この寺の前の田の畔に松の亭々たる大木があったことから、この附近の高松の地名が起ったと伝えられる。

注(5) 浄土宗。新寺小路にある。寺内に古塚あり、いわゆる八つ塚の一つと伝えられている。十三所観音中の第15番札所観音堂が境内にある。有名人の墓碑として松井梅屋〔詩人、侍医、文政9歿〕、同溶々〔女流俳人、松窓乙二の娘、梅屋の妻、嘉永元歿〕、白石権太夫〔養賢堂指南役、書家、国指定林子平墓の墓碑銘の筆者、明治20歿〕、小倉撫松〔大肝入、公益家、明治5歿〕、同茗園〔歌人、昭和2歿〕、同博〔国文学者、歌人、郷土史家、昭和20歿〕、但木土佐〔執政、明治2戦犯の罪で東京で処刑、芝高輪東漸寺に葬る。招魂碑〕、長谷りわ〔女流教育者、柳絮学校創設者、大正7歿〕等があったが、この寺の墓地全部が葛岡に移されてしまった。

注(6) 都市計画法により自然風致維持の目的で、昭和9年12月内務省告示第564号を以て指定された。この指定は、第1号国分寺風致地区、第2号大年寺・八木山風致地区、第3号愛宕山風致地区、第4号靈屋風致地区、第5号大崎八幡風致地区、第6号北山風致地区、第7号台ノ原風致地区、第8号小松島風致地区であった。與兵衛沼一帯は、小松島風致地区に含まれる。小松島風致地区は海老堤〔小松島〕・新堤・大堤と與兵衛堤等の堤群と松林のなだらかな丘陵が東に延びて、安養寺地区〔昭和15年追加指定された第9号風致地区〕に接続する素晴らしい自然環境である。しかし民有地の宅造が進み、かなり狭められてきている。

注(7) 俗に与平沼と呼ばれることが多い。「宮城郡誌」（宮城郡教育会）には『〔原町〕…與平堤あり、周囲七町三十三間二尺』、『宮城郡地誌…（小田原村）…與平池。周囲六町三十間、村の北方にあり。』とある。

資料 塩松勝譜（舟山萬年、仙台香雪精舎明治40刊2冊本、「仙台叢書」別集第4巻）

仙台叢書〔別巻2〕（「天遊館記」。「仙台金石志」巻之9の内）

仙台人名大辞書（菊田定郷）

〔「與兵衛沼」を標出項目とする資料がないので複数の資料に潜在する内在情報を連結させて解決しなければならないケースである。〕

## 108 仙台の大橋殉教はいつか

問 仙台の大橋殉教碑の銘板に『元和10年〔1624〕2月18日と2月22日（太陽暦）ポルトガル宣教師カルバリオ神父外8名の教徒が水責めにあって殉教した』とあり、一方大橋たもとの案内板には『寛永元年〔1624〕1月4日カルバリヨ神父以下7名の切支丹が水責めで処刑された』と、違ったことが書かれています。どちらが本当なのですか。

答 大橋下のプール寄りの河原の殉教碑は深沢守三神父が製作、信者有志の建立したもので、その銘板には、次のように刻まれています。

『仙台キリシタン殉教碑

ここは元和10年〔1624〕2月18日と2月22日（太陽暦）ポルトガル人宣教師カルバリオ神父日本名長崎五郎衛門外8名のキリスト教徒が大橋の下の水牢で厳寒のさなかに水責めにあって殉教した遺跡である

この記念像は深沢守三神父の作 三体の記念像のうち中央はカルバリオ神父 その左右はここでの殉教者たちの象徴としての武士と農民像である

1971年9月12日』

右側の銘板には

『重而〔かさねて〕召捕候きりしたんの覚

高橋佐々衛門 お浜之者

野口二右衛門 豊前ノ者

若杉太郎衛門 但馬ノ者

安間孫兵衛 遠江ノ者

小山正太夫 越前ノ者

佐藤今衛門 若松ノ者

長崎五郎衛門 なんばん人

次兵衛 死 相模ノ者